

震災後、エネルギーの話題が人々の口にのぼることが増えましたね。これまで、壁のコンセントにつなげば、電気料金を払っている限り、好きなだけ電気を使えるのが当然で、コンセントの先はどこにつながっているのかなんて、考えてもいなかった人が多かったでしょう。でも、今回の震災・原発事故で、私たちの暮らしを支えているエネルギーと自分たちとのつながりが明らかになりました。

同時に、「どういう電力やエネルギーに、自分たちの暮らしや社会・経済を支えてほしいか」という希望や思いを抱く人も増えていきます。これまでエネ

震災100日 女性の目線から

—— 新エネルギー ——

3

50年後の姿 市民が選択

環境ジャーナリスト

枝廣淳子さん



えだひろ・じゅんこ 62年京都府生まれ。翻訳家、環境ジャーナリスト。6月12日開催の自然エネルギーに関する総理・有識者懇談会に参加。

きな被害を出してしまう原発ではなく、温暖化を加速してしまう化石エネルギーでもなく、自分たちの世代だけでなく未来世代にとっても安全・安心で、いつまでもなくならずに使い続けられるエネルギーがいいと思

地熱といった自然エネルギーです。世界的に見ても、自然エネルギーは急速に増大しています。そう、その普及を後押しする制度や仕組みがある国では、ということ。自然エネルギーと言っても自然には増えないのですよね!

これまで人任せにしてきたエネルギーのことを、もつとそれぞれで考え、お互いに意見を言ったり聞いたりしましょう。「30年後、50年後の日本のエネルギーはどうあってほしいか」を思い描きましょう。私たち市民が望む方向に、社会は動いていくのですから。

ルギーのことなんて政府や業界に任せておけばよいと思っただけ、けれど、やっぱり自分たちで考えなくちゃ、自分たちで望

ましい未来の姿を創っていかねばなりません。「放射能フリー、CO₂フリー、しかも国産」のエネルギーはすでに存在しています。太陽や風、

